

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科		
科目名称 [英語名称]	農業政策論Ⅱ [Agricultural PolicyⅡ]			実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	252800	授業形態	講義	単位数	2	配当学年	3年次
教員氏名	章 大寧			学位授与の方針 との関連	DP3(1) DP3(4)		
授業概要	農業政策論Ⅱは、農林水産省の年次報告資料等を参考に、日本農業政策の実態について分析・検証する。						
関連する科目	農業政策論Ⅰ、農業経済学、農産物流通論、農業法人論						
授業の進め方と方法	アクティブラーニング及び主体的な学習を重視し、受講生が担当分野を決め、予習、内容要約、報告及び質疑応答という学習スタイルを繰り返し身につけていく。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 食料安定確保政策 2 世界の食料需給と食料安全保障 3 食料消費の動向と食育政策 4 食料品の安全と消費者信頼確保対策 5 食品産業育成対策 6 食料品の需要開拓 7 農業構造の改革 8 農業生産基盤の整備・保全対策 9 農産物生産対策 米・青果物・畜産物 10 農業生産技術の開発・普及政策 11 農業の多面的機能・生物多様性対策 12 農業と地球温暖化・気候変動対策 13 農業災害対策 14 農村振興・活性化対策 15 農業団体育成政策 						
授業の到達目標	農業政策の主要分野についてどのような政策が行われているか理解すること。 環境保全・所得直接支払政策など農業政策の新しい動向について理解すること。 日本農業の再建のためにこれから求められる農業政策の方向性と課題について理解すること。						
授業時間外の学修	講義内容をより深く理解するために、授業内容の関連事項・重要テーマについて、受講生に宿題を課し、意見発表やレポート提出等を求める。予習・復習を含めて必要な授業時間外の学修時間は週2時間程度。						
課題に対する フィードバック	課題報告やレポート提出について、作成方法、報告内容等について解説する。また質疑応答を通じて、受講生全員が理解を深めることにする。	評価方法	課題レポート等 50% 期末試験 50%				
テキスト	なし。						
参考書	「新版農業問題入門」田代洋一、大月書店 「食料環境政策学を学ぶ」明治大学農学部食料環境政策学科編、日本経済評論社 「食料・農業・農村白書」(及び同参考統計表)、農林水産省編、農林統計協会 「食と農の環境経済学」宇山満、昭和堂 「世界の農業環境政策」莊林幹太郎・木下幸雄・竹田麻里、農林統計協会 「日本の農業環境政策」莊林幹太郎・佐々木宏樹、農林統計協会 「アメリカ2014年農業法」服部信司、農林統計協会						
備考							